

育み・安らぎ・潤う

景観を目指して①

はじめに

本町は、昨年11月に景観行政団体に移行し、本町の景観づくりに伴う条例を制定しました。これにより、本町が残すべき景観に対する規制が可能となり、景観の維持と未来へ残すための第一歩を踏み出しました。

規制とは、住民目線での規制です。例えば、高層階のビル、自然と調和の取れない屋外広告物の規制などです。

本来景観とは、日々の生活の中で見える風景や景色のことだけではなく、目で見えるもの、見る人が感じるものです。山や川、建物や道路の景色に人々の生活や生業及びその背景にある歴史や文化等を反映したものが景観です。

江戸時代から植林が続き、林業により繁栄してきた本町は、自然と調和した未来へ残しておきたい風景や景色を数多く有しています。

景観ワークショップ

豊かな自然や伝統、風習を残すためには、町民のみなさんにその価値を知っていただくことが重要です。

普段何気なく見ている景色をじっくり見ていただきたいと考え、昨年から町民が参加して景観ワークショップを開催しています。昨年度は、板井原集落、智頭宿・河原町、そして豊乗寺周辺で開催しました。参加者が自由に意見を言える場を作り、素朴な意見や、気づいたことをまとめていきました。

本年度は本町が誇る林業景観について開催しています。手入れの行き届いた山林とそうではない山林の違いを確認し、智頭杉がどのように流通しているかを知ることができました。また、木造建築は木の香りや耐久性に優れていることもわかりました。次回12月には第3回目のワークショップを開催します。ぜひ参加してください。

目指す景観は

林業の営みから生まれた杉林の景観、それぞれ各地区の特性を持つ景観は、後世に残すべき資源です。これらの資源を町民のみなさんと維持・保存していくために、本町では「国指定重要文化的景観」を目指します。

重要文化的景観とは、地域における人々の生活又は生業及び風土により形成された景勝地のことであり、本町は森林の景勝地での選定を目指しています。

選定を受けると景観に影響を与える行為を行うときに、届出が必要となりますが、通常の生活に支障が発生する場合や、応急措置等の場合は必要ありません。

また選定を受けると、修繕等に係る一部補助等の優遇措置を受けることが可能となります。



右・中央：板井原 左：河原町

連載 ♪ 第5回



院長 濱崎尚文

認知症の診断と 薬物療法

 糖尿病は、かかりつけ医師が診療を担い、保健師・栄養士などによる生活習慣の改善を図ります。白血病は、大病院の専門医・チームで、集中治療をします。

認知症は、白血病と異なり、糖尿病に類似しています。

 糖尿病は、症状が出た段階で、網膜・腎・神経などの臓器障害が出ています。対策は、血液検査結果も参考にし、健康な間に、食生活・運動習慣を心がけます。検査値が悪化すれば、薬剤での治療が始まり、インスリンの自己注射なども加わります。

 認知症は、初期段階では、採血検査で異常はなく、脳の画像検査でも異常が出ないことがあります。

認知症の症状・分類	
中核症状	記憶障害や判断力の障害（見当識障害）・計画や段取りを立てられない（遂行機能障害）など
周辺症状	無気力・無言・うつ状態などの陰性症状（元気がない症状） 易怒・妄想・幻覚・徘徊・暴力・暴言・介護抵抗などの陽性症状

認知症の診断は、日常生活の困り感をご家族・支援者から聞き取ることから始まります。

 医師は、各病型に特有の身体所見を診察で確認し、改訂長谷川式簡易知能評価スケールなどの問診検査も参考にし、総合的に診断するのネ。

 薬物療法で大切なのは、一人ひとり病状が異なる病状に処方する薬の種類と量が適切かどうかです。

現在、日本では認知症の薬として、ドネペジル（商品名：アリセプト）・ガランタミン（商品名：レミニール）・リバスチグミン（商品名：リバス

タッチパッチ、イクセロンパッチ）・メマンチン（商品名：メマリー）の四種類が使われています。

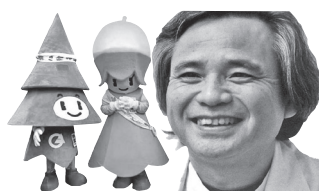
効果は、症状を少し改善させる、あるいは進行を緩やかにすることが期待できるかもしれない程度です。

 受診して、治療薬が開始・増量・追加された時、その後で患者さんの状態がどのようになっただか（あるいは変わらなかったか）を、丁寧に観察し、担当医に伝えることが不可欠なのネ。

 診察室での診察や検査では治療方針は決まらないのだ！

 そう、認知症の薬物療法は、認知症の薬のみでなく、精神・行動を整える薬を含め、生活が改善しているか、介護者が介護し易くなっているかに本質があるのです。

 みんなが理解を深めることが大切ですネ！



濱崎院長

認知症治療の要点

薬剤のうち、主として処方されるドネペジル・ガランタミン・リバスチグミンは興奮作用のある薬剤で、適量を超えると徘徊・暴言・暴力・妄想などをさらに激しくしてしまう可能性があります。

介護する上で困り易いのは、**中核症状**よりも**周辺症状**の人です。日常生活の中にある認知症の周辺症状を家族・介護者から丁寧に聞き取り、評価します。

陽性症状が目立つ場合は、まず抑制系の薬剤で穏やかになることを目指し、その上で認知症治療薬を開始します。

陰性症状が目立つ場合は、興奮系の薬剤を用いますが、認知症治療薬を同時に開始（併用）することもあります。

抑制系の薬剤が効きすぎると元気がなくなり、ボーッとしてしまう可能性があります。興奮系の薬剤が効きすぎると興奮・徘徊・妄想などが激しくなる可能性があります。

問合せ先 国民健康保険智頭病院 総務課 ☎ 75-3211